

平成21年度 全国高体連自転車競技専門部 第1回理事会 議事録

平成21年4月18日～19日
大阪府 ホテルアウリーナ大阪 会議室にて

司会進行 中村 雅章
参加者 高松 彰・坂井田米治・早川誠司・福田俊彦・大野直志・中梶秀則・中田将次・
井上正継・林 泰弘・川田拓也・今井喜代治・中村雅章
(敬称略) 以上12名

部長挨拶 高松 部長

議長選出 高松 部長

審議事項

1 新役員について (坂井田)

別紙役員名簿参照。新規約に則り役員を編成した。

専門部の迅速な対応をすることを目的に少人数で編成した。

(1) 役員の確認について

副理事長1名・常任理事6名・理事3名・監事2名の確認

(2) 副部長(空席)の兼務について

現在まで各ブロックからの副部長の推薦がなく空席である。

理事長が副部長兼務でスタートしたが、本来の形で組織をスタートしたい。

再度、理事から推薦がないか確認した。継続審議とする。

(3) 3専門部会について

旧専門委員会を専門部会と改称した。

各部会の常任理事2名から推薦を受けて部会員を編成した。

今後、常任理事の選出も理事長同様に選出基準を明確にし、ブロックのバランスを考える。

2 平成20年度全国高体連自転車競技専門部収支決算報告 (中梶)

別紙 平成20年度収支決算書参照 原案のとおり承認

3 平成21年度全国高体連自転車競技専門部事業計画 (中梶)

別紙 事業計画(案)参照 原案のとおり承認

(1) 日韓対抗戦について (坂井田)

2月の旧全国理事会で、高体連としては来年度の日韓対抗戦から参加しないことを決定した。

それを受けて、学連に対し正式に不参加の申し入れをしたが、再度、韓国側から高体連に対し強く参加の要請があった。さらに、従来どおりの日韓対抗戦に対し、本年度もJCFから120万円の予算が計上されている。

以上の理由から、本年度に限り、何らかの参加条件・形態が改善されること念頭に学連と調整し、参加することが決定された。

来年度以降の参加については、改めて高体連としての方針をいかした体制で参加できるように準備が必要である。

来年度以降の基本的参加条件。

ア 経費削減のため、日本での開催は既存の大会に招待する形にしたい。

イ 純粋に競技中心の派遣事業を希望する。

ウ 選考方法を改善しベストメンバー10人くらいの参加を希望する。

(2) 平成21年度全国選抜大会について (坂井田)

ア 北九州市からは行政側の組織縮小化は避けられないが、継続可能である旨の連絡があった。

イ ロードでの事故防止のため、公園内を含め現行のコースのレイアウトを変えることは可能であるが、一般道路については警察の許可が下りない。

ウ 継続して北九州で開催するのであれば、地元高体連を含め行政側と話し合い、北九州市担当者共通理解を得られるよう努力する。

エ 諸問題も山積してきているので、将来的に開催地の検討する必要がある。

(3) 強化事業計画について (大野)

別紙 平成20年度の強化委員会報告・提案事項参照 原案のとおり承認
高体連事業計画及び強化部会役割分担については、部会で決定後HPに掲載する。

4 平成21年度全国高体連自転車競技専門部収支予算案 (中梶)

別紙 平成21年度収支予算書参照 原案のとおり承認

5 平成21年度の加盟登録について (中梶)

全国高体連専門部HPからのダウンロードに変更する。

登録の様式が変更される。HPに掲載する。

各校顧問は、提出書類と電子ファイルを各都道府県へ提出する。

各都道府県委員長は、記載内容を確認し登録申請する。

6 各ブロック高体連のホームページ立ち上げについて (坂井田)

現在の全国高体連専門部のHP内に各ブロックのHPを新設する。

各ブロックのページを用意するので、各ブロックのリザルト等を事務局まで

送信してもらう。

7 各ブロック大会の要項統一について (坂井田)

各ブロック大会の実施要項を精査し、統一に向けた検討を始める。

8 その他

各ブロック・都道府県委員長に対し、全国理事会での決定事項についての連絡経路の確認

ア 規約の変更に伴って混乱がある。地域部会長には地域のとりまとめをお願いしたい。

イ 理事が分担し、各ブロックの地域部会長に決定事項・内容を連絡する。

北海道 中村から森先生

東北 中村から中野目先生

関東 福田から折本先生

東海 林から伊藤先生

北信越 中梶（本人）伊藤先生

近畿 今井（本人）

中国 河田（本人）

四国 河田から佃先生

九州 中田から月成先生

ウ HPに新規連絡事項が掲載された場合は、事務局からブロック委員長に連絡し、各都道府県に周知していただく。

報告事項

1 JCF関係 (理事長)

4月8日にJCFの会議があり、岩楯会長以下の役員が決定した。

高体連としても、今後積極的にJCFに参画していきたい

2 平成20年度全国高等学校選抜自転車競技大会について (総務・技術審判)

本年度選抜開催地が確定した時点で開催県から総務部に1名加入していただく。

各都道府県単位の選抜大会、参加人数を検討する。

予算削減から審判員の人員減となり、運営が大変である。

初日にロードレースは問題がある。ロードでの事故防止を検討する。

検討事項

理事会では、以下の内容について継続して検討することを確認しました。
つきましては、各ブロック・各都道府県からのご意見を参考にさせていただきたい
と思いますので、次のアドレス nakamura-masaaki@m04.asn.ed.jp にお知らせくださ
い。

1 全国選抜大会について。

(1) 各都道府県の参加人数の変更について（案）

- ア 各都道府県で定数6名を満たせないところがあるので、基礎定数を減員する。（例えば、各都道府県の基礎定数を4名とするなど。）
- イ 各都道府県の参加者をその年度の1，2年生登録人数に対する比例配分とする。（例えば、参加者を1，2年生登録者数の3割にするなど。）
- ウ その年度のインターハイ・国体で入賞者した1，2年生は別枠でエントリーを認める。

(2) ロードレースについて（案）

- ア 北九州市で、3年連続の落車事故防止対策としてフィニッシュ地点を変更する。
- イ コースのキャパシティを考え、参加人数を各都道府県4名から3名に減員する。ただし、開催地が変更された場合は、参加枠を4名に戻す。

(3) トラックレースについて（案）

- ア 学校対抗という観点から1種目1名のエントリーを完全実施する。
現行では、1kmT.T・3kmIPを希望する選手は第2希望としてSP・PR・KR・SCの中から1種目を選択できる。
タイムシードにより第2希望の選手が追加になると、同種目2名のエントリーとなる。これは、学校対抗の公平性から認められない。
ゆえに、すでにエントリーされている種目には、第2希望を認めない。

2 先日の旧全国理事会で実施したアンケート結果をもとに、さらに全国の監督・顧問の意見を集約し、ギヤ比制限の撤廃について検討に入ります。

3 平成21年4月から暫定的な新規約でスタートしましたが、今後とも規約の改訂を視野に入れながら、より適正なものにしていく。